



清流 news

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1

Tel 042-514-8309

発行日 1月・7月

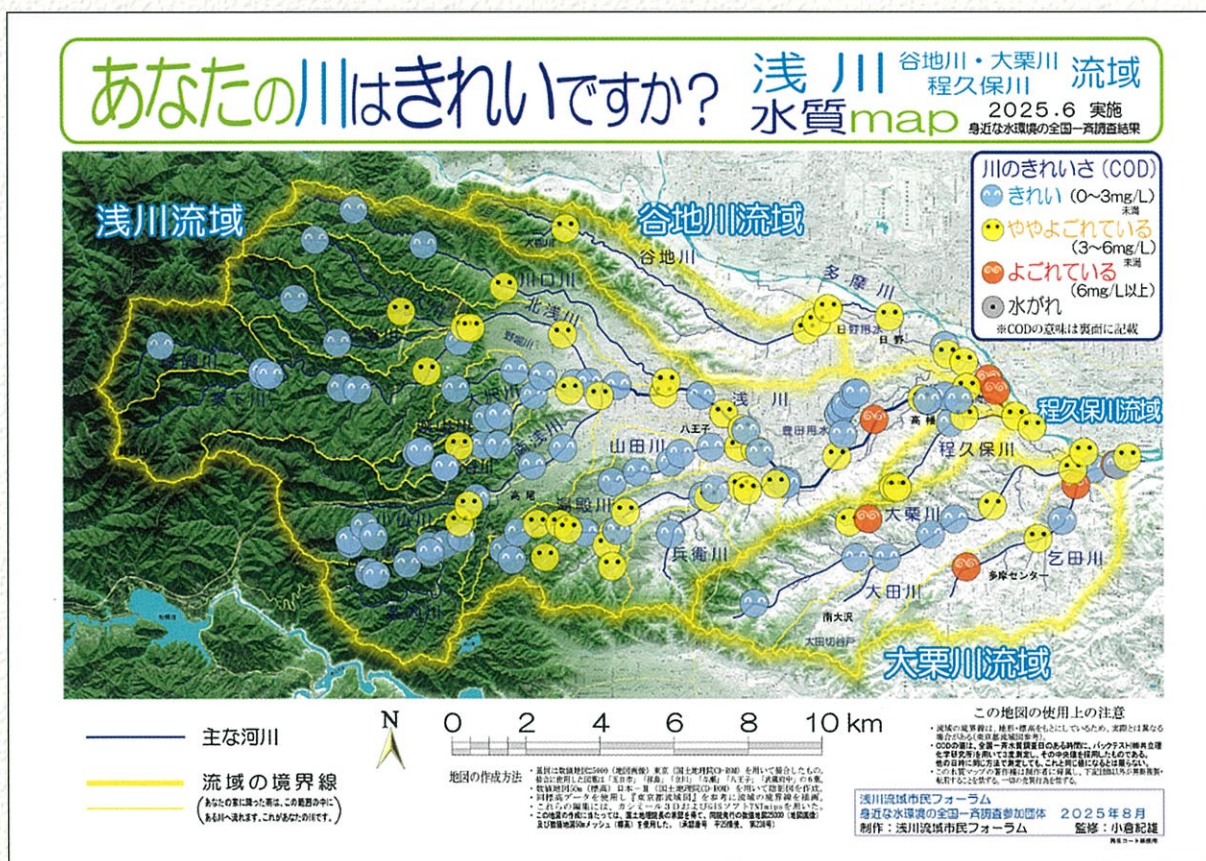
Vol. 138

発行
日野市
環境共生部
緑と清流課

あなたの川はきれいですか？

浅川流域水質map

全国各地で水調査を行ってきた市民団体の代表者が設立した「全国水環境マップ実行委員会」が作成した統一的なマニュアルに基づき、平成16年（2004年）から、毎年、世界環境デー（6月5日）に最も近い日曜日を中心に、「身近な水環境の全国一斉調査」を市民団体と国土交通省が協働して実施しています。この調査ではパックテストで川のきれいさを示す指標であるCODの測定も行っています。浅川流域を拠点として活動する「浅川流域市民フォーラム」が平成16年（2004年）から「浅川流域水質map」を作成し、浅川の過去の水質データも載せていますのでホームページでご覧ください。



浅川流域市民フォーラム

<https://sites.google.com/view/asakawamap>

全国版

<https://www.japan-mizumap.org/index.htm>




水草を除去して水位が下がった様子



水草が詰まって水位が上がっている



水路に繁茂した水草やクレソンを下流側まで運んでザルに入れてトラックに運び上げる様子



石川堰での水草除去作業

水門の開閉に使用するハンドル
(職員の手作りです)

スクリーン点検で回収したごみや水草

また、金属製のごみ受け（スクリーン）も鉄筋を溶接して現場の形状に合わせて、一つ一つ手作りで作成しているものがあります。また、水門の開け閉めに使用するハンドルも過去に在籍していた職員が金属を切り出し、溶接して作成したものです。点検後、水草、藻、クレソンに加えて、投棄されたごみが回収されます。少ないときで100キログラム、多いときは200キログラムになります。毎週同じ点検箇所と同種の投棄されたごみを見るのは、残念です。

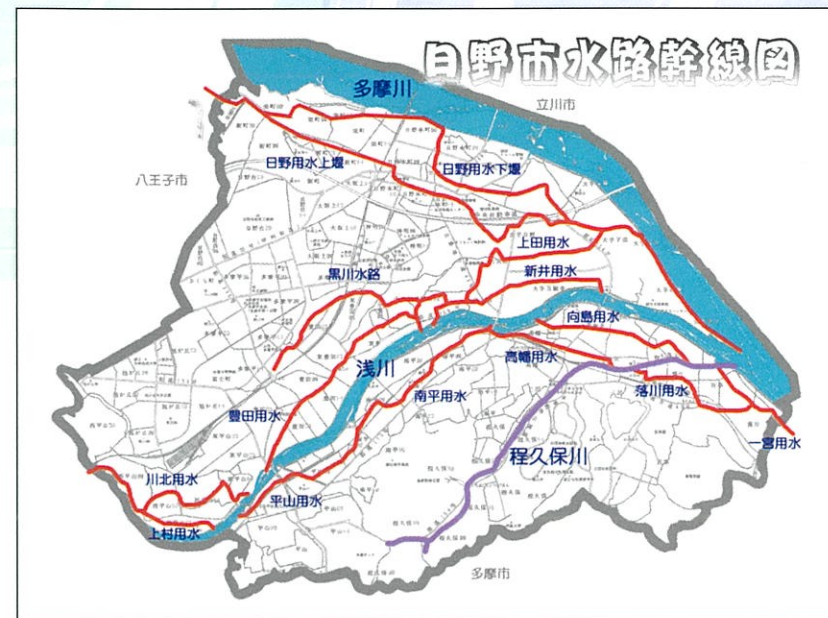
が、作業中に市民の方に励ましのお言葉をかけていただくのはありがたいです。以上のように市内の用水路は市の職員による手作りの設備や道具で維持管理してきたことが、特徴の一つとしてあげられます。先に紹介したスクリーン点検は台風などの降雨量が多いときのパトロールや水門操作を行う際の基本となるコースとなっており、人事異動で水路清流係に配属されると、点検を身体で覚えていくのが伝統となっています。



草刈りの様子

緑と清流課 取り組み事業の紹介

日野市内を流れる主な用水路（農業用水路）は全部で14あり、支線を含めた総延長は約116km。この長さは都内最長です。多摩川・浅川から取水した水は、網の目のように流れて行き、再び多摩川・浅川に戻されます。緑と清流課では、水辺の保全・湧水の保全、水辺の再生・復元、学校ビオトープなど、市民とのパートナーシップによってさまざまな事業に取り組んでいます。その中から「水辺の保全」に係る事業の一部を紹介します。



〈スクリーン点検〉

市内を流れる用水路は、道路や鉄道などの下をぐり抜けて流れています。このような区間は暗渠区間（トンネル）といいますが、水草やごみ等が暗渠区間で詰まることを防ぐために、その手前にスクリーンと称する金属製のごみ受けを設置しています。緑と清流課では市内を一筆書き約40キロメートルのコースを設定して職員2名体制で毎週金曜日に用水路の点検を行っています。この点検はスクリーン点検と名付けており、庁用トラックで市内86か所のスクリーンで受け止めた水草やごみの収集作業を行います。一つ、用水路沿い走行することで用水路の水量や護岸、水門、水の流れに異常がないか確認しています。

点検というものの、長靴、ゴム手袋をつけて、てみ、ざる、ロングフォークを使って、用水路を流れてきた流水阻害物（ごみ）を人力で除去するのが主たる作業です。この作業で使用する道具で特徴の一つに、ロングフォークというものがあります。ロングフォークは、私たち緑と清流課が、用水路の維持管理作業のために作成した唯一無二の道具です。農具にフォークという道具があるのはご存知でしょうか。洋食を食べる時に使うフォークのように、先の部分を突き刺して物を持ち上げる道具で、スコップのように持ち手が付いている農具です。このフォークを元に職員が業務の合間に少しずつ加工して、現場で作業しやすいように既製品を加工して作成します。



ロングフォーク

作り方は、①フォークの突き刺す部分と持ち手部分を分離する、②材木屋から長さ2メートルの樫の木丸棒を購入して先端を加工する、③水草等を引き上げやすいようにフォークの先端部分に熱を加えて曲げ加工する、④フォークの先端と②を合体させるといった工程です。

訓練内容は、シナリオに沿って進行し、風水害を想定した救出・救助演習と、水防工法の作成を行いました。



市長・消防署長・消防団長による訓練開始報告の様子

令和8年5月30日（土）、日野市多摩川グラウンドにて、防災安全課が主体、日野消防署が協力となり合同水防訓練を実施しました。訓練には、日野市消防団をはじめとする多くの関係機関にご参加いただきました。

令和8年度 日野市合同水防訓練を実施しました

訓練シナリオについて

日野市では警戒レベル4の「避難指示」が発令されたところから始まります。市道路課のパトロール車が市内を巡回中に、土砂災害によって倒壊している家屋を発見し、市の災害対策本部へ通報、後に消防署へ伝達され、消防署（水防指揮隊）と消防団が出勤し、中に取り残されている住民の救助活動にあたります。



救出・救助訓練の様子

倒壊家屋の救助活動が続く中、市道路課のパトロール車は次に、河川の合流点付近で越水危険箇所を発見します。河川からの越水を防ぐため、市職員や消防署、消防団等が協力し、水防工法の作成訓練を行いました。また、水防工法訓練では、新たな取り組みとして市内事業所で結成された『災害対策協力会』を中心とする大型詰め土嚢を作成しました。



積み土嚢工法作成の様子

水防工法とは

主に土嚢を活用し、洪水時の浸水や堤防被害を防ぐための応急対策です。水防工法には様々な種類があります。

今回、訓練の中では①積み土嚢工法、②改良積み土嚢工法、③大型土嚢を活用した積み土嚢工法、④連結水嚢工法（消防署）を実施しました。また、予め作成した工法展示では⑤シート張り工法、⑥月の輪工法、⑦マンホール噴出防止工法を作成しました。

終わりに

日野市には多摩川・浅川という2つの大きな一級河川が横断しており、平時には清涼感のある風景を創出しています。しかし、ひとたび台風等が発生すると、浸水被害や土砂災害等が起こる危険性が潜んでいます。これらの災害が起こる前に、備蓄品の準備や避難所の確認など、日頃からの備えを心掛け、有事の際には落ち着いた行動が取れるようにしましょう。

日野市防災安全課



大型積み土嚢工法作成の様子



連結水嚢工法の様子

多摩川・浅川 クリーン作戦

開催時期の変更のお知らせ

緑と清流課主催

「令和8年度 多摩川・浅川クリーン作戦」の開催時期が変更になりました。



①変更内容

（変更前）例年4月中旬または下旬の土曜日に開催

（変更後）令和9年（2027）年2月6日土曜日に開催予定

②変更理由

（1）鳥類の営巣時期へ配慮した自然環境保護の観点

・当イベントを例年開催している4月は多くの野鳥にとって営巣や子育ての重要な時期となります。

鳥類の繁殖活動を妨げないように開催時期を調整することが環境保全の観点から日野市の重要な責務であると認識しています。

（2）参加者の熱中症予防

・近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、4月においても記録的な高温となる日が増加傾向にあります。参加者皆様の健康と安全確保のために涼しい時期の変更が適切であると判断しました。

③今後のご案内について

・具体的な参加方法などの詳細は、市ホームページ等で改めて案内します。皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、本変更にご理解とご協力をお願いします。



清流ニュースにひとこと

清流ニュースに、「こういう記事を載せて欲しい！」や「こんなイベントを企画して欲しい！」など、皆さんからのご意見・ご要望を募集したいと思います。次号以降の清流ニュースの編集の参考にさせていただきます。

宛先

（お手紙、FAX、メール等をお願いします）

日野市役所 環境共生部 緑と清流課
清流ニュース担当宛て

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1

FAX 042-581-2516

メール seiryu@city.hino.lg.jp



実践女子大学の皆さんが大勢参加してくれました！

春の市内一斉清掃

市では、「日野市みんなであちをきれいにする条例」に基づき、毎年5月(春)と11月(秋)の最終日曜日を「市内をみんなできれいにする日」としています。

市内一斉清掃は自治会、学生ボランティア等、様々な団体の方々に協力をいただき実施しています。

当日は朝早くから、多くの市民や学生たちが、きれいなまちを維持しようと、積極的に清掃を行っていただきました。

また、清掃活動を通じて、

令和8年度 春の一斉清掃

参加団体（組）		284
参加人数（人）		約16,700
収 集 量 （kg）	可燃	24,100
	不燃	380

【環境政策課】

環境に対する意識向上と、皆さんの交流を深め、地域のつながりを強めるきっかけ作りとして頂ければ幸いです。
今後も、市内の良好な環境保全にご協力をお願いします。
次回は、令和8年11月29日(日)に秋の市内一斉清掃を予定しています。



気候市民会議NEXTの様子

合同気候市民会議・気候YOUTH会議開催

候変動対策実施ロードマップ」としてまとめています。

合同気候市民会議

同時期に気候市民会議を開催した縁から多摩市と協働し、合同で「気候市民会議NEXT」を令和7年1月11日(土)に実施しました。

それぞれの市で気候市民会



議を実施した結果を持ち寄り、内容を洗練するとともに、市を越えて出来る取り組みについても話し合いました。
結果はそれぞれに市に持ち返し、以降の気候変動対策に活用しております。

気候YOUTH会議

日野市・府中市・調布市・稲城市の20代以下の若年層を中心に、気候変動に対する取り組みについて若者同士で話し合い、アクションする「気候YOUTH会議」を開催しました。

令和6年度より開催しており、令和7年度からは、若者自らが活動できる機会を創出することを目的に実施しています。

令和8年1月17日(土)の第1回会議では、講師を招いて「海の中の気候危機」について学び、NTT・Citylaboで循環型社会を目指す先端技術を見学し、気候変動問題の解決へのアプローチについて考えました。

令和7年度第2回の会議は、令和8年3月15日(日)に府



気候YOUTH会議の様子

中市市民活動センタープラットフォームにて開催し、講師を招いて目標設定の仕方や、アイデアを形にする企画の作り方を学びました。グループワークでは学んだことを活かし、意見を出し合って企画案を考えました。

第3回は、令和8年3月22日(日)に、Plant日野市多摩平の森産産連携センターで開催し、第2回会議で考えた企画案を振り返り、より細かい企画案を考えました。

「環境問題に対する行動が当たり前でできるまち」や「生きものと自然が共存するまち」、「みんなが3Rを知り、意識するまち」など目指すこ

とをグループで決め、様々な企画案が生まれました。
令和8年度は、グループで考えた企画を実行していき、気候変動問題の解決を目指していきます。

令和8年度以降も、気候変動の影響は様々な形で表れる可能性があります。猛暑だけではなく、台風など災害の激甚化や、農業などにも被害が及びます。

気候変動に対し、原因である温室効果ガスを減らす「緩和」と、既に起きてしまっている影響に対応する「適応」という2つの対策が考えられます。

こうした努力は、皆様の生活や安全にも繋がっていきます。是非一緒に取り組みを進めていきましょう。



合同気候市民会議
(市HP)



気候YOUTH会議
(市HP)



水辺のある風景 日野50選 選ばれた水辺を紹介します

水辺のある風景 日野50選

朝の仲田の森蚕糸公園。おしゃべりを始めたばかりの男の子が、まだ見上げるぐらいのモニュメントで立ち止まり、指さしながら、「とり、はな、かえるとさかなさん」と、お母さんと夢中になっています。多くの水辺がある日野市。



水辺をモチーフにしたタイルが並びます。
モニュメント制作には滝合小学校、潤徳小学校、第五小学校、東光寺小学校、七生緑小学校、第一中学校、七生中学校のみなさんが参加してくれました。

平成25(2013)年、その中から「水辺のある風景日野50選」が選定されました。その場所を紹介する冊子も刊行されています。さらに、平成27(2015)年度から2年にわたり、選定された場所に標識を設置しました。その際、水辺が身近にある市内の7小学校と2中学校が参加し、制作してもらったモニュメントの設置も標識に加えて行なわれました。

仲田の森蚕糸公園のもその一ヶ所で、公園の西入口、隣り合う市民の森スポーツ公園にもうひとつ、仲田用水を引き込んだ水路の脇に2つ設置されています。どちらも埋め込まれている陶板を制作してくれたのは、公園と隣り合う日野第一中学校生徒のみなさんです。

今、「水辺のある風景日野50選」選定から10年以上を経て、標識がある場所を訪ねてみると、「水辺があった風景」ことさえ分からぬほど様変わりしてしまった箇所もありました。当時作られた冊子「水辺のある風景日野50選」はその時代の記録であり、手に取ることがなければ、将来にわたって水辺への関心を繋ぐ「道具」になることはできないことを痛感します。

これに反して、当初は小学生や中学生にも水辺に関わってもらいたいと企画したモニュメント制作でしたが、これらは年月を経て、さらに次の世代へ「日野の水辺」を伝えていく役割がますます大きくなっています。仲田の森蚕糸公園で出会ったお母さん、「この子、これが大好きで、いつも寄るんです。保育園のお散歩でも人気が高い」と。あと何年かすれば小さな時の体験の記憶が、水辺への関心へのきっかけとなってくれるはずです。

※「水辺のある風景日野50選」は日野市HPでご覧になれます。



夏を彩るタマムシ

タマムシ（ヤマトタマムシ）は、全身が金属光沢のある緑色に輝き、見る角度によって色が変わる美しい昆虫です。6月から8月ごろにかけて、公園や河川敷に生えるエノキやケヤキの木に集まってきます。



タマムシ

●死んでも色あせない 構造色

タマムシの虹色は体表そのものの色ではなく、薄い膜が何層にも積み重なり複雑に光

を反射させることで生み出されます。見る角度によって色が変わるこの仕組みは、「構造色」と呼ばれています。その輝きは死後も失われることがなく、国宝の「玉虫厨子」をはじめ、古くから装飾に使われてきました。縁起の良い虫として「吉兆虫」とも呼ばれます。輝く姿は自然の中では目立ってしまうように思えますが、天敵である鳥はこのきらめきを嫌うため、鳥を寄せ付けぬ効果があるそうです。

●タマムシの見つけ方

タマムシの成虫はエノキやケヤキの葉を食べるため、特によく晴れた日中に、これらの木の梢で翅を煌めかせながら飛び回ります。ただし木のてっぺんを好むため、長い網がないと間近で観察するのは難しいです。もう一つの方法は、産卵場所となる伐採木や枯れ木を探すことです。日当たりの良い場所に積まれた伐採木には、産卵のためにメスが飛来することがあります。また、生きたタマムシを見つ

けることができなくても、これらの場所には死骸や翅が落ちていられるかもしれません。死してなお輝きを失わないタマムシは、その体の一部を拾うだけでも嬉しくなります。昨年2025年は、タマムシがとても多く発生した年でした。はたして今年はどうでしょうか？

●濃い色合いの タマムシの仲間

タマムシの仲間は日本には220種が知られていますが、その多くは1cm未満の小型種です。色合いも茶色や黒色など、一見すると地味な種類が多いですが、鈍く輝く金属光沢は健在で、じっくり観察すると独特の濃い美しさがあります。例えば、スダジイの葉にミミズが這ったような食痕を残す



サシゲチビタマムシ



シラホシナガタマムシ



ウバタマムシ

サシゲチビタマムシ（約4mm）、ケヤキの伐採木に集まるシラホシナガタマムシ（約10mm）、大型種でマツ類を食べるウバタマムシ（約40mm）などがあります。タマムシの仲間は、それぞれが多様な美しさを持っています。意外と身近なところにも生息しているタマムシたちをぜひ探してみてください。

文 日野の自然を守る会

写真

片山 敦
片山 敦
小林 健人

あとかぎ

新年度が始まり、三か月が過ぎますが、日ごとに暑さが増し、地球温暖化の影響を感じる季節となってきました。今後、暑さが厳しくなることが予想されますので、熱中症対策をはじめ、健康管理に配慮いただきますようお願い申し上げます。

コンクリートの都市化が進む中、日野市のように100キロ以上もの用水路が、街の中に流れている光景は非常に貴重です。水路の維持管理は、行政だけでなく、農家の方々や地域のボランティアによる清掃・保全活動に支えられています。何気なく歩く住宅街のそばにも、昔から流れ続ける用水路があります。日野のまちの魅力も、こうした日々の営みがあってこそです。

日野市を散策する際は、ぜひ足元の水路に目を向けて見てください。清らかな水の流れ、せせらぎの音に耳を傾けながら、自然豊かな温かさを感じることができるはずです。